

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	世界史Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0142		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『世界史B 新訂版』（実教出版）				
担当教員	牧野 雅司				
到達目標					
1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 2 近代化を遂げた欧米諸国が、20世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。 3 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 4 20世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。 5 科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。 6 科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。 7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 8 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。 9 それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について十分考察できる。		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できない。
評価項目2	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を十分説明できる。		近代化を遂げた欧米諸国が、20世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。		近代化を遂げた欧米諸国が、21世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できない。
評価項目3	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について十分考察できる。		帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。		帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できない。
評価項目4	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を十分説明できる。		20世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		21世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を十分説明できない。
評価項目5	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を十分説明できる。		科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。		科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できない。
評価項目6	科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について十分説明できる。		科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。		科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できない。
評価項目7	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを十分認識している。		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識できない。
評価項目8	異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて十分解釈できる。		異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。		異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できない。
評価項目9	それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について十分説明できる。		それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。		それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (F)					
教育方法等					
概要	現代の世界の基礎を作った近現代の世界史について、18世紀以降の世界の動きを概観することにより、基礎的な知識を獲得し、歴史的な考察能力を高める。				
授業の進め方・方法	授業は講義形式で行う。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 成績評価は、中間および期末試験の結果により評価する（100％）。到達目標の習得度を評価基準とする。 【備考】 板書を写すだけでなく、授業の内容をよく聞き、適宜メモを取ること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-309) 内線電話 8903 e-mail: m.makino@maizuru-ct.ac.jp（アットマークは@に変えること。）				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	

後期	3rdQ	1週	中華帝国の崩壊と中華民国の創立（1）	1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 2 近代化を遂げた欧米諸国が、20世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。 3 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 5 科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。 7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 8 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。 9 それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。
		2週	中華帝国の崩壊と中華民国の創立（2）	1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 2 近代化を遂げた欧米諸国が、20世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。 3 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 5 科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。 8 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識して x0000 x000C x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 0 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 0 x0000 x0008 x0000 翺 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0006 x0000 x0000 x0000 璫 x0000 x0002 x0000 x0000 x0000 x0000 0 x0000 x0000 x0004 x0000 翻 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 0 x0000 x0000 隸 x0002 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 0
		3週	19～20世紀初頭の朝鮮半島と日本列島（1）	1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 2 近代化を遂げた欧米諸国が、20世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。 3 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 4 20世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。 7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 8 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。
		4週	19～20世紀初頭の朝鮮半島と日本列島（2）	1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 2 近代化を遂げた欧米諸国が、20世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。 3 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 4 20世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。 8 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認 x0000 x0000 耀 x0000 耀 x0000 x0000 x0000 x0001 x0000 x0000 x0000 0 x0000 x0001 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 0 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 x0000 000 x0000 x0000 x0000

		5週	第一次世界大戦（１）	1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 3 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 8 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。 9 それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。
		6週	第一次世界大戦（２）	1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 3 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 8 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。 10 それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。
		7週	まとめと復習	1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 8 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。 9 それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	後期中間試験の解答と解説	1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 8 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。 9 それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。
		10週	ヴェルサイユ体制と国際協調	1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 3 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 4 20世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。 5 科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。 7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 8 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。 9 それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。

		15週	まとめと復習	1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 8 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。 9 それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。
		16週	後期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	
		グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0